

令和2年度 八代高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	生物基礎	学 年	1	類 型	
単位数	2	教科書	数研出版「改訂版 生物基礎」				
副教材	第一学習社 スクエア最新図説生物、生物基礎研究ノート						

学習目標	日常生活や社会との関連を図りながら、生物に関わる様々な現象に対して興味関心を高め理解するとともに、科学的なものの見方や考え方を身につける。
------	---

学期	学習内容	学習の到達目標 (完全に理解すべき事項)	到達度自己評価 A B C
1 学 期	第1章 生物の特徴	・生物学を学習する上で重要な視点である生物の多様性と共通性について理解する。	☐ ☐ ☐
	1. 生物の多様性と共通性		
	2. エネルギーと代謝	・酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して、生物が代謝によってエネルギーを取り出していることを学習する。	☐ ☐ ☐
	3. 光合成と呼吸		
	第2章 遺伝子とそのはたらき	・遺伝情報を担う物質であるDNAについて、その構造および遺伝情報は塩基配列にあることを理解する。	☐ ☐ ☐
2 学 期	1. 遺伝情報とDNA	・転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質の合成について理解する。	☐ ☐ ☐
	2. 遺伝情報の発現	・遺伝情報は正確に複製されて受け継がれること、それぞれの細胞ではすべての遺伝子が発現しているわけではないことについて理解する。	☐ ☐ ☐
	3. 遺伝情報の分配		
	第3章 生物の体内環境	・動物の体内の細胞にとって、体液は一種の環境であり、体内環境が一定に保たれていることを理解する。	☐ ☐ ☐
	1. 体内環境としての体液		
2 学 期	2. 腎臓と肝臓による調節	・体内の調節のしくみについて、循環系、腎臓と肝臓、自律神経系と内分泌系、免疫を中心に理解する。	☐ ☐ ☐
	3. 神経とホルモンによる調節	・私たち自身のからだにかかわる内容について身近な話題を取り上げることで理解を深める。	☐ ☐ ☐
	4. 免疫		
	第4章 植生の多様性と分布	・植生について、その構造や、遷移とそのしくみについて理解する。	☐ ☐ ☐
	1. 植生とその成り立ち	・地球上にはさまざまなバイオームが見られること、どのようなバイオームが分布するかは主に気温と降水量によって決まることを、世界と日本のバイオームについて理解する。	☐ ☐ ☐
2 学 期	2. 植生の遷移		
	3. 気候とバイオーム		

3 学 期	第5章 生態系とその保全	・生態系の成り立ち，生態系における物質循環とエネルギーの流れについて理解する。	☐ ☐ ☐
	1. 生態系とその成り立ち		
	2. 物質循環と エネルギーの流れ	・生態系はそのバランスが保たれていること，人間の活動が生態系のバランスに大きな影響を与えていることなどを，身近な例から地球レベルの環境問題までを取り上げながら学習し，自然環境を保全することが大切であることを理解する。	☐ ☐ ☐
	3. 生態系のバランス と保全		

学習方法	①さまざまな用語を他者に説明できる。②生命現象のしくみを文章で説明できる。 この2点を到達目標として授業に臨み、家庭学習に取り組む。
------	---

評価方法	①定期考査（課題考査も含む） ②課題 ③授業への取り組み姿勢 この3点を総合的に判断し、学期ごとに100点満点で算出する。
------	--